

5月



2026年

みやま

第336号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



植樹祭の風景

平川病院は今年60周年を迎え、令和8年5月19日、記念植樹式を行いました

院長 平川 淳一

昭和41年（1966年）7月に平川病院は開設しました。私の父親である平川健龍が建てた病院です。私が平成7年（1995年）に院長になって31年、やっと父の年数を超えました。本当に多くの皆様に支えられ、ここまで来ることができたと心から思います。本当にありがとうございました。今回、その感謝を込めて、「タイサンボク（泰山木）」というモクレン科の木を、A-WING棟の横、南東の峰の上に植樹しました。モクレンは春に花をつけますがこの木は夏に白い花が咲きます。今はまだ3m程度の苗木ですが、大きくなると30mくらいまで成長するようです。その頃には私は天国から見下ろしていると思いますが、これからずっと患者さんの幸せ、病院の発展を横から見ていてくれると思います。この木が大きく育つことを祈ります。

【表紙】 院長あいさつ 【P2】 多摩西南ブロック「精神科相談ガイドブック（第3版）」が完成しました

【P3】 ネット・ゲーム症外来、専門プログラムの立ち上げから3年が経ちました

【P4】 「口からはじめる健康」について 【P5】 令和8年度 新入職者オリエンテーションを実施しました

【P6】 令和8年度 診療報酬改定について・東京都福祉局来訪について・編集後記

「地域精神科身体合併症救急連携事業」 多摩西南ブロック「精神科相談ガイドブック(第3版)」が完成しました

医療相談科 科長 荻生 淳希

「地域精神科身体合併症救急連携事業」は、一般科救急医療体制において搬送困難例になりやすい精神疾患の患者様が円滑に身体合併症の治療を受けられるように精神科医療機関がバックアップ体制を作り、身体治療を終えた一般科救急医療機関からの相談・受け入れを円滑に進めることを目的としている事業になります。

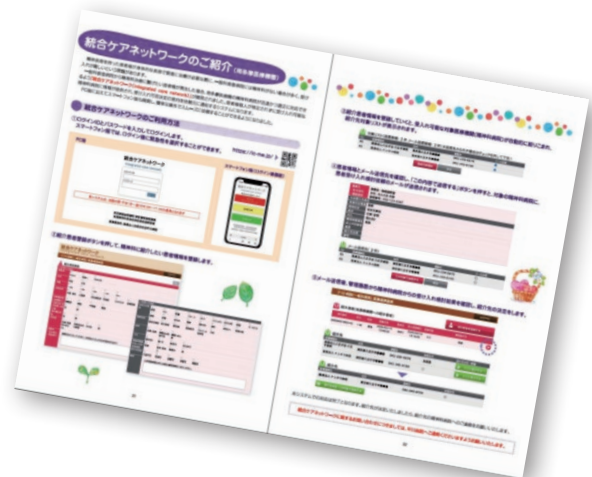
2016年から南多摩医療圏、2018年には西多摩医療圏をあわせた「多摩西南ブロック」で活動する事業となりました。「第8次東京都保健医療計画（令和6年度～令和11年度）」において救急医療の柱の一つとして、この事業を継続して行うことになっています。事業の一環として、多摩西南ブロックにおける精神科病院の皆さんにご協力いただき、2018年に「精神科相談ガイドブック」の初版が完成しました。

このガイドブックは主に一般科救急医療機関の医師、退院調整看護師、ソーシャルワーカーといった方に、身体治療後の患者様の転院を依頼する際やコンサルテーションを必要とされる際に活用していただきたいです。ガイドブッ

クには、情報提供を整理する入院相談チェックシート、南多摩医療圏、西多摩医療圏における精神科病院の相談連絡先、窓口一覧、そして各医療機関の身体管理や専門治療の対応ができる病院の情報、入院につなぐ際に必要な精神保健福祉法の解説などを掲載しています。今回新たに2019年より南多摩医療圏で運用している、WEBを活用した患者紹介システム（通称：「統合ケアネットワーク」）のシステム利用手順を追加しました。

2018年にガイドブックを作成して以来、一般科救急病院のスタッフから、近隣の精神科医療機関情報と精神保健福祉法上の必要な情報の要点が整理されているのでわかりやすいと好評の声をいただいています。

今後も地域精神科身体合併症救急連携事業を通して、患者様が適切な治療を受けられ、地域で支える仕組みづくりに少しでも寄与できるよう取り組みたいと思っております。引き続き、皆様のご協力をお借りしながら事業を進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。



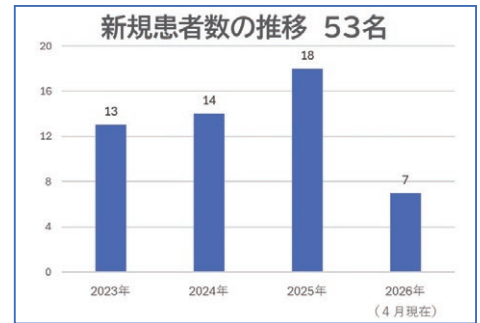
ネット・ゲーム症外来、専門プログラムの立ち上げから3年が経ちました

ネット・ゲーム症委員会 デイケア 科長 井出 学

2023年に開始したネット・ゲーム症専門外来と専門プログラム（CAP-G）は立ち上げから、丸3年が経ちました。今回はネット・ゲーム症専門外来にお越し下さった患者さんの人数の推移、背景にある疾患・障害、年齢層について紹介させていただきます。また専門外来を受診されたあとの、支援の全体像についても提示いたします。

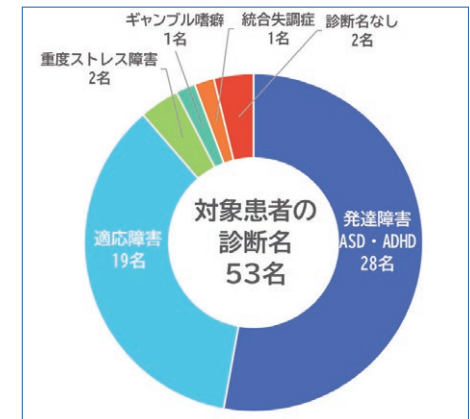
1. ネット・ゲーム症専門外来新規外来患者さま数の推移

2026年は4月時点での数字となりますが、新規外来患者さまは少しずつ増加しております。ネット・ゲームという娯楽・余暇活動が、これまでの日常生活や経済生活の安定を侵すようになることをネット・ゲーム症と言いますが、平川病院に問い合わせをしてみようと決心されるまで、迷い苦悩されたと初診の際にうかがいます。ネット・ゲーム症という概念や平川病院の専門外来の存在が広まり、年々新規患者さまが増えてきていることがわかります。

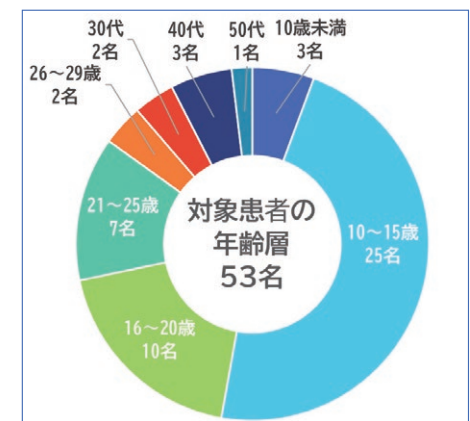


2. 背景となる精神疾患・障害について

専門外来を担当している宮田副院長も指摘される点ですが、ネット・ゲームに依存する背景に発達障害やその傾向が潜在していることが多いです。当院でもそうした患者さまがいらっしゃいます。

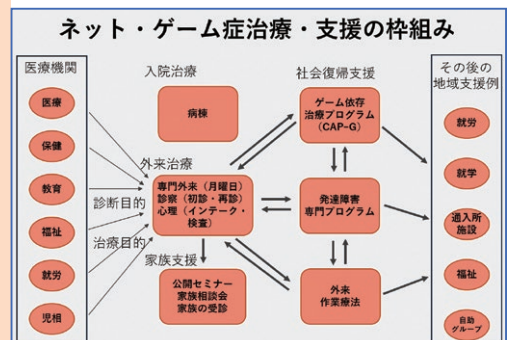


平川病院は発達障害の専門外来や専門プログラム（デイケア）を設けており、発達障害の治療・支援も受けることができます。また適切な処方により、学校や家庭で落ち着けるようになった、ゲームの約束事について話し合えるようになったという患者さん、ご家族もいらっしゃいます。



3. 専門外来後の治療・支援のあり方

専門外来の患者さんは個々の状態に応じて、定期的な診察・処方、専門プログラム（CAP-G）参加、場合によっては入院などの治療・支援を受けます。また10代前半の方が多く、教育機関や児童福祉サービスや児童相談所などの連携が増えていきます。学校からも関心を寄せていただき、宮田副院長が講演をさせていただいた際には、たくさんの生徒・ご家族・先生に聴講していただきました。他にも就労系サービス、訪問看護・ヘルパー・グループホーム・若者相談等といった様々な領域のスタッフの方々と研修や連携を重ね、患者さんの支援にあたっています。今後も、ネット・ゲーム症について、その治療や支援、そして啓発活動にチーム一同取り組んでいきます。宜しくお願いいたします。



「口からはじめる健康」について

歯科室 歯科衛生士 平井 みつよ

東館の病棟にて、作業療法科の協力を得ながら、作業療法の時間に「歯磨きの会」という講話を行いました。日常生活の中での習慣づくりや、身体の清潔を保つことの大切さ、その中でも「お口をきれいにすること」が全身の健康につながることを、わかりやすい言葉で丁寧にお伝えしました。

講話では、患者さんご自身が自分のお口の中に興味を持てるよう、基本的な内容を一つひとつ確認しながら進めました。入れ歯の洗い方や取り扱い方、歯磨き粉の適切な量、歯がないことで起こるリスクや入れ歯の必要性、むし歯や歯周病の予防が全身の健康に関係すること、さらに食事時の窒息予防についても具体例を交えてお話ししました。

患者さんはとても熱心に耳を傾けてくださり、「歯ブラシはどのように選べばよいのか」「どのくらいの時間磨けばよいのか」などの質問も多く寄せられ、講話への関心の高さが感じられました。実際に「今日からやってみます」と声をかけてくださる場面もあり、前向きな

変化のきっかけとなったことを実感しています。講話後には、ご自身のお口の状態に気づき、積極的に口腔清掃に取り組む姿も見られました。

また、当日は病院スタッフの参加もあり、同じように真剣に聞いてくださいました。日々の関わりの中で、患者さんのお口の状態に少し目を向けていただくことが、より良いケアにつながる大切な視点になると感じています。専門職だけでなく、関わるすべての人が関心を持つことで、より質の高い支援につながっていくと考えています。

お口の健康は、全身の健康の入り口です。まずは知ること、気づくことが第一歩となり、その積み重ねが健康維持につながります。そして、その気づきを日々の生活の中で無理なく続けていくことが何より重要です。私たち歯科は、身近な存在として継続的に関わるができる強みがあります。これからも情報交換を大切にしながら、職員の皆さまとともに、患者さんの口の健康を支えていきたいと考えています。

歯磨き会
の様子



令和8年度 新入職者オリエンテーションを実施しました

病院教育委員会 作業療法科 主任 平本 美佳

令和8年度新入職者オリエンテーションを、4月1日・2日の2日間にわたり実施しました。今年度は、昨年4月3日以降に入職された方を含め、計31名の皆さんにご参加いただきました。

講義では、理事長先生・院長先生より、平川病院の成り立ちや現在の取り組みについてお話があり、参加者はうなずきながら熱心に耳を傾けていました。

また、毎年恒例となっている他己紹介も行いました。国籍や出身、これまでの経験など、多様な背景をもつ参加者同士が共通点を探し合い、意見を交わしながらまとめていく姿からは、今後の平川病院を支えていく職員としての前向きな姿勢が感じられました。

実技研修では、感染対策、拘束体験、一次

救命、包括的暴力防止プログラムなど、どの内容にも高い関心が寄せられ、各グループとも真剣に取り組んでいました。研修後のアンケートでは、「実技の時間をもっと増やしてほしい」といったご意見も寄せられており、今後のプログラム改善に向けて検討を進めてまいります。

資料の電子化についても、今年度より研修資料をQRコードで閲覧できるようにし、必要に応じて翻訳や拡大表示ができる環境を整えました。研修後もスマートフォンやパソコンからいつでも確認できるため、「見やすかった」「見返しやすい」といった声が寄せられています。今後も、より分かりやすく、誰にとっても利用しやすい研修環境づくりを進めてまいります。



院長先生講義



理事長先生講義



PPE 着脱



一次救命とAED



包括的暴力防止プログラム

令和8年度診療報酬改定について

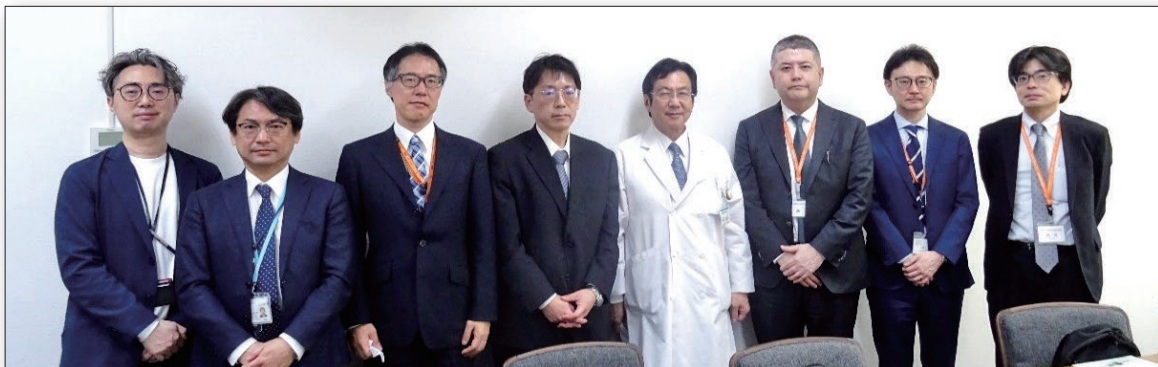
事務部 医事課長 齋藤 晃人

2年に1回の診療報酬改定が6月に行われます。改定率は3.09%と30年ぶりの高水準となり、2年前の0.88%と比べても大幅な引き上げとなりました。背景には、急激な物価高騰や賃金上昇により赤字医療機関が増加したことがあります。それに伴い今回の改定では、病院経営の基盤である入院料の引き上げに加え、物価対応料が新設されました。

また、「多職種連携」と「医療機関の機能分化」が重要なテーマとなり、これに対応した評価が多数新設・拡充されています。従来は人員を増やすことで収入が増える仕組みが中心でしたが、人口減少に伴い人材確保が困難となる中、より効率的な医療提供体制への転換が求められ、診療報酬でも院内での情報通信技術の活用が一部で求められました。国もAI等による業務効率化の推進しており、今後の改定への影響も想定されます。

今改定では3.09%と高い改定率であったと先も述べましたが、実際の物価高等を考慮し、単純に医療機関の赤字を補うには5%以上の改定率が必要でした。しかし今の時代そのまま補填というわけにもいかず、人口減も考慮すると経営努力・効率化をする高機能の病院は残り、漫然とした経営の病院は淘汰される傾向になってきています。医事課は今後も診療報酬制度を通じ、効率的かつ高機能な病院運営に的確に対応すると共に、患者さんに安心して受診していただける病院経営に貢献していきます。

東京都福祉局が当院へ来訪されました



【写真左より】 障害者施策推進部 精神保健医療課 課長代理（医療担当）渡辺 昌則様、障害者施策推進部 精神保健医療課 課長代理（精神保健担当）森 健太郎様、障害者医療調整担当部長 吉野 成典様、障害者医療担当部長 菊地 章人様、平川院長、障害者施策推進部 精神保健医療課長 浦 和実様、障害者施策推進部 療育課長 山岡 亮一様、障害者施策推進部 精神保健医療調整専門課長 内川 貴義様

4月14日に当院へ東京都福祉局の7名が来院されました。当日は、院長による病院概要や精神科医療についての説明後に院内を視察されました。

編集後記

ゴールデンウィークも終わり、5月も残り僅か。皆さんはお休み期間中、どのように過ごされましたか。ある事前調査では物価高騰や中東情勢に影響されて、GWはお金をかけずに自宅でのんびり過ごす割合が5割を超えていたとのこと。『5月病』と言われるこの季節、ウォーキングやストレッチ等の適度な運動を取り入れたり、趣味に興じたり、セルフチェックを心がけて乗り越えていきましょう。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

